城踏 SHIRO FUMI

姫路市立城郭研究室ニュース「城踏」No５　1999年７月１日
編集・発行；姫路市立城郭研究室
〒670-0012 姫路市本町 68-258 日本城郭研究ｾﾝﾀｰ内
TEL 0792-89-4877 FAX 0792-89-4890
E-mail kyo-jyokaku@city.himeji.hyogo.jp

大宰府の防衛ラインか　「蘆城」？

大宰府南東で古代山城を発見！

▲城壁の一部；切石の基壇上に土塁が構築されている

姫路でもお馴染みの菅原道真。彼が政争に破れて左遷されたのは、「遠の朝廷」とも称された大宰府であった。道真の時代には当初の機能はかなり低下していたものの、奈良時代には外交、対辺境軍事拠点として、古代日本にとって非常に重要な国家機関であった。だから、日本が中国や朝鮮との外交関係がこじれて軍事的緊張状態になったとき、当時の政権は防衛ラインを設定して、大宰府を防衛しようとしたのである。そのための防衛施設が、水城（みずき）や大野城、基肄城（きいじょう）である。

大宰府を取り巻く防衛ライン構想の淵源は百済の都・扶余（プヨ）に求められ、『日本書紀』にも記されるように、百済人の技術が採用されていることは間違いない。

しかし一方で、現実には大宰府から豊前・豊後方面へ通じるルートには、防衛ライン空白地があり、その点で釈然としないところがあった。最近の筑紫野市教育委員会の調査によれば、その方面への官道が検出されている。

今回発見された山城は、そうした交通路を押え、大宰府南東方面の防衛ラインとして絶好の位置にあり、大宰府関連遺跡として、今後の調査が期待される。

今年３月下旬、中島聡氏（古代山城研究会、東洋大姫路OB）が、福岡県筑紫野市に所在する宮地岳を踏査中に偶然西側山腹から山裾で切石を丁寧に並べた城壁を発見した。４月上旬、同研究会ﾒﾝﾊﾞｰが調査したところ、水門も見つかり、石塁や土塁等の形状から、古代山城遺跡と判断した。前頁写真はその時に撮影した石塁で、地形に沿って「折れ」を形成している部分である。石塁は３～４段で、その上に土塁を築いている。土塁・石塁あわせた城壁の高さは約2.3mとなるが、本来はもう少し高かったとみられる。

また、基底部の列石は、最下段が外側に約20cm飛び出しており、朝鮮半島の山城に類似例がある。

山頂へ向かう城壁ライン

土塁の上部は、斜面を削りだされて、「車道（くるまみち）」と呼ばれるテラス状遺構になっている。これが城壁ラインとなって続く。但し、この城では城壁が途中で途切れており、全周しない。このような不完全な城壁のあり方は、鹿毛馬神籠石（福岡県頴田町）でも見られる。

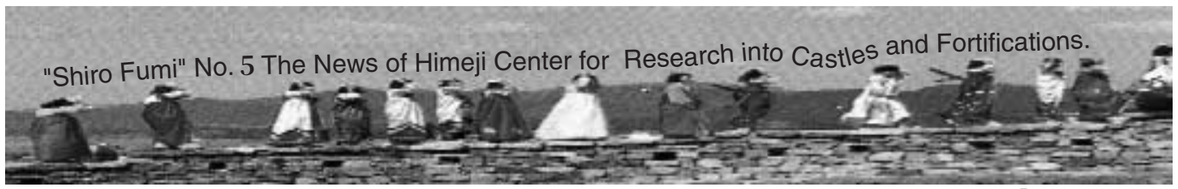
宮地岳遠景：山頂標高 339m（南から）

前ページ写真城壁は山裾に位置する。８合目くらいには中世城郭の遺構もみられる。この山城遺跡は、字名「阿志岐（あしき）」に所在する。歴史的地名としては「蘆城駅家」が付近に推定されている。その「蘆城」とは、この山城に由来するのだろうか。また、宮地岳の南では。藤原広嗣の乱（740年）の際に設けられた関に関連すると見られる遺跡も発掘されている。

[この遺跡については、宮地岳所在古代山城跡（仮称）として、すでに筑紫野市教育委員会が６月末に記者発表し、報道された。]

宮地岳へは西鉄・ＪＲ二日市駅から西鉄太宰府駅行きバス、またはタクシー。近くには二日市温泉や九州歴史資料館がある。二日市駅周辺にはあまり宿泊施設がない。日曜日に行くと、居酒屋等のメニューが激減することあり。

「城踏」；韓国では、閏月に山城や邑城の城壁上を歩くと、 年間足の病にならないという民俗儀礼がある。これをＳung Balbkiと いい、あえて日本語に訳せば「城踏み」となる。



▲「城踏」の様子